

報道関係各位

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

文化庁メディア芸術祭 小樽展

「メディアナラティブ ～物語が生まれる港街で触れるメディア芸術」 全 103 作品を発表

来る令和2年1月11日（土）～1月26日（日）までの16日間にわたって、文化庁メディア芸術祭 小樽展「メディアナラティブ ～物語が生まれる港街で触れるメディア芸術」を開催いたします。

今回、全103作品（うち18作品が大型展示）と会期中に実施するさまざまなイベントプログラムが確定しましたので発表します。

文化庁メディア芸術祭 小樽展

「メディアナラティブ ～物語が生まれる港街で触れるメディア芸術」開催概要

英文表記： JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL in OTARU – Media Narrative

【会 期】 令和2年1月11日（土）～1月26日（日）

【会 場】 小樽市産業会館〈展示〉 市立小樽文学館〈展示〉
小樽市観光物産プラザ（運河プラザ）・三番庫〈展示〉
小樽市民センター・マリンホール〈上映〉

【入場料】 無料

【主 催】 文化庁

【共 催】 小樽市、小樽市教育委員会、小樽商工会議所、小樽観光協会

【エグゼクティブアドバイザー】

水口哲也 エンハンス代表、シナスタジアラボ主宰、慶應義塾大学特任教授、
第11回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門審査委員主査、小樽出身

【ディレクター】

岡田智博 アートプロデューサー、一般社団法人クリエイティブクラスター代表理事

【企画・運営】 クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

【公式サイト】 <http://otaru2019.j-mediaarts.jp/>

※報道用写真はサイト内「報道発表」よりダウンロードが可能です。ガイドンスに従ってご使用ください。

■ 本件に関する問い合わせ先

文化庁メディア芸術祭 小樽展事務局 PR 担当 （クリプトン・フューチャー・メディア株式会社内）

E-mail: cfm_pr@crypton.co.jp



イベントプログラム（入場無料）

公開制作と成果展示「漫画×詩 Narrative Live」

本展のスタートより、漫画家・瀧波ユカリ（『モトカレマニア』ほか）と詩人・三角みづ紀（『隣人のいない部屋』第22回萩原朔太郎賞受賞ほか）が小樽におとまり滞在、ふたりがナラティブする公開制作を開催します。制作の成果は、会場のアトリエとなった空間で会期中展示します。展示だけでなく、作家が滞在し「ナラティブ」を紡ぐ、小樽展だけの特別企画です。

○ 漫画＝瀧波ユカリ、詩＝三角みづ紀

制作期間：1月12日（日）～14日（火）※1/12(日)、13(月)は制作風景を公開しています。

成果展示：1月16日（木）～ ※1/14(火)、15(水)、20(月)は会場休館日です。

会場：市立小樽文学館



©瀧波ユカリ

トーク「ユカリそれからみづ紀のナラティブ」

漫画と詩で、多くのファンをつかんでいるふたりが、小樽でのおとまり滞在制作で生まれたナラティブ(物語)について話します。

○ 1月19日（日）18:00～ 小樽市産業会館 会場内「ナラティブラウンジ」

● 話し手：瀧波ユカリ(マンガ家)

（第12回マンガ部門審査委員推薦作品『臨死!!江古田ちゃん』、『モトカレマニア』ほか）

三角みづ紀（詩人）

（第10回中原中也賞『オウバアキル』、第22回萩原朔太郎賞受賞『隣人のいない部屋』ほか）

● 聞き手：玉川薫（市立小樽文学館館長）、岡田智博（文化庁メディア芸術祭小樽展ディレクター）

トーク「まきむう、長谷川愛とメディアナラティブ」

長谷川愛さんが受賞した第19回アート部門優秀賞「(不)可能な子供、01:朝子とモリガの場合」は、同性婚のカップルである朝子さんとモリガさんの遺伝子情報をもとに生み出した「不可能な子ども」との一家団欒の「写真」をメインに、その科学的背景を示す資料によって構成された現代美術作品（展示会場「小樽市産業会館」）です。

バイオテクノロジーで想像を超えた創造の時代の到来、その中で生まれる人間の意識のゆさぶりを作品にすることにより世界で注目される長谷川愛さんと、作品に登場した、タレントで文筆家の



©HASEGAWA Ai

まきむこと牧村朝子さんが、それぞれが持つ創造性から、今、これからの「メディアナラティブ」をテーマに話します。

○ 1月12日（日） 17:00～ 小樽市産業会館 会場内「ナラティブラウンジ」

● 話し手：長谷川愛（第19回アート部門優秀賞『(不)可能な子供、01:朝子とモリガの場合』）
牧村朝子（タレント、文筆家）

● 聞き手：岡田智博（文化庁メディア芸術祭小樽展ディレクター）

シンポジウム「ナラティブシティ・創造都市小樽の可能性」

文化を積極的に活用することにより、新たな成長が生まれる「創造都市」が世界中で生まれています。成功した「創造都市」は、交流人口が増加、観光、新産業、そして新たな生きがいや市民に生まれています。物語を多く生み出してきた地域資源溢れる小樽そして北後志には、そのサクセスのチャンスがあります。本展も含め新たな価値を生み出す創造都市の可能性を、アジア規模で牽引するリーダーでかつ小樽地域に思い入れのある話し手とともに語り合います。

○ 1月13日（月・祝） 15:30～ 小樽市民センター・マリンホール

● 話し手：佐々木雅幸（創造都市ネットワーク日本顧問、文化庁地域文化創生本部主任研究官）
山重徹夫（クリエイティブディレクター、「中之条ビエンナーレ」総合ディレクター）
迫俊哉（小樽市長）
福島慶介（デザイナー・文化庁メディア芸術祭小樽展シンボルグラフィック制作・N合同会社）
岡田智博（文化庁メディア芸術祭小樽展ディレクター）

オープニング・セッション

「メディア芸術と物語性 - 街と結びつくナラティブ」

新しい表現や体験としてのメディア芸術は、街と結びついてどんな物語性（ナラティブ）を生み出しているのでしょうか？

メディア芸術祭小樽展のエグゼクティブアドバイザーである水口哲也をモデレーターとして、メディア美学者であり、メディアアートの黎明期より、世界のメディアシーン、アートシーンを見続けてきた武邑光裕（ベルリン在住）と、初音ミクを北海道から世界に発信し続けているクリプトン・フューチャー・メディア代表の伊藤博之が、小樽のもつ街や都市の魅力、未来の可能性について考え、議論していきます。

○ 1月11日（土） 17:00～ 小樽市産業会館 会場内「ナラティブラウンジ」

● 話し手：武邑光裕（メディア美学者）＊遠隔参加

伊藤博之（クリプトン・フューチャー・メディア代表）

水口哲也（文化庁メディア芸術祭小樽展エグゼクティブアドバイザー）

クロージング・トークセッション

「テクノロジーとエンタテインメントの融合が もたらす未来」

- より深いメディア・ナラティブに向けて

新しい表現や体験としてのメディアテクノロジーが、音楽や映像をはじめとする様々なエンタテインメントと結びつくと、その街や都市にどのような可能性を生み出し、どんな物語性（ナラティブ）を生み出していくのでしょうか？その未来の可能性について語ります。



水口哲也

○ 1月26日（日） 15:00～ 小樽市産業会館 会場内「ナラティブラウンジ」

● 話し手：小橋賢児（LeaR 代表）

水口哲也（文化庁メディア芸術祭小樽展エグゼクティブアドバイザー）

岡田智博（文化庁メディア芸術祭小樽展ディレクター）

他、ゲスト調整中。

長編アニメーション映画の上映

文化庁メディア芸術祭の過去の長編アニメーションの受賞作品より3作品を会期中上映します。

鑑賞には上映入場整理券（無料）が必要となります。

整理券は、開催期間中、小樽市産業会館内の本展インフォメーションで配布します



『おおかみこどもの雨と雪』

©2012「おおかみこどもの雨と雪」製作委員会

○ 上映ラインナップ

上映会場＝小樽市民センター・マリナーホール

・ 1/24（金）19:00～

「花とアリス殺人事件」岩井俊二 第19回アニメーション部門優秀賞作品

・ 1/25（土）12:00～

「おおかみこどもの雨と雪」細田守 第16回アニメーション部門優秀賞作品

・ 1/25（土）15:00～

「君の名は。」新海誠 第20回アニメーション部門大賞作品

専門家によるメディア芸術の解説

ディレクターが、会場を巡りながら作品解説を行います。

○1/17(金)、1/18(土)、1/23(木)16:00～ 小樽市産業会館 会場集合

●講師：岡田智博(文化庁メディア芸術祭小樽展ディレクター)

展示作品

※産業会館＝小樽市産業会館、三番庫＝小樽市観光物産プラザ（運河プラザ）・三番庫、
マリンホール＝小樽市民センター・マリンホール、文学館＝市立小樽文学館

	作品名	作家名	文化庁メディア芸術祭	展示方法	会場
	【アート部門】				
1	KAGE-table	近森基	第1回 デジタルアート(インタラクティブ)部門大賞作品『KAGE』	立体展示	産業会館
2	InToTheWood	近森基	1の関連作品	立体展示	産業会館
3	Morpho Tower - Dark Red	児玉幸子	第5回 デジタルアート(インタラクティブ)部門大賞作品『突き出す、流れる』	立体展示	三番庫
4	コミュニケーションの泉	児玉幸子	3の関連先品	立体展示	三番庫
5	High Contrast(仮題)	児玉幸子	3の関連作品	立体展示	三番庫
6	呼吸するカオス	児玉幸子	3の関連作品	立体展示	三番庫
7	(不)可能な子供、01:朝子とモリガの場合	長谷川愛	第19回アート部門優秀賞	構成展示	産業会館
8	百年海図巻 アニメーションのジオラマ	チームラボ	第14回アート部門審査委員会推薦作品『百年海図巻』	立体展示	三番庫
9	CROSSING #03	後藤映則	第20回アート部門審査委員会推薦作品『toki-』	立体展示	三番庫
10	THE WORLD IS OURS	Ann OREN	第21回アート部門審査委員会推薦作品	映像展示	産業会館
	【エンターテインメント部門】				
11	人喰いの大鷲トリコ	『人喰いの大鷲トリコ』開発チーム(代表:上田 文人)	第21回エンターテインメント部門大賞作品	体験展示(ゲーム)	産業会館
12	サカナクション「アルクアラウンド」	関和亮	第14回エンターテインメント部門優秀賞作品	構成展示	産業会館
13	歌舞伎町 探偵セブン	SCRAP	第22回エンターテインメント部門優秀賞作品	構成展示	産業会館
14	初音ミク -Project DIVA- f	Team Project DIVA	第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品	体験展示(ゲーム)	産業会館
15	Rez Infinite	水口哲也	第20回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品	体験展示(ゲーム・VR)	産業会館
16	SNOW MIKU(初音ミク)	クリプトン・フューチャー・メディア	10、14の関連作品(本展特別展示)	構成展示	産業会館

	【アニメーション部門】				
17	君の名は。	新海誠	第20回アニメーション部門 大賞作品	長編上映	マリナーホール (1/25)
18	La Chute	Boris LABBÉ	第22回アニメーション部門 大賞作品	短編上映	産業会館
19	おおかみこどもの雨と雪	細田守	第16回アニメーション部門 優秀賞作品	長編上映	マリナーホール (1/25)
20	花とアリス殺人事件	岩井俊二	第19回アニメーション部門 優秀賞作品	①長編上映 ②構成展示	①マリナーホール (1/24) ②産業会館
21	ハルモニア feat. Makoto	大谷たらふ	第21回アニメーション部門 優秀賞作品	短編上映	産業会館
22	Negative Spaces	KUWAHATA Ru / Max PORTER	第21回アニメーション部門 優秀賞作品	短編上映	産業会館
23	The First Thunder	Anastasia MELIKHOVA	第21回アニメーション部門 新人賞作品	短編上映	産業会館
24	Yin	Nicolas FONG	第21回アニメーション部門 新人賞作品	短編上映	産業会館
25	透明人間	山下明彦	第22回アニメーション部門 新人賞作品	短編上映	産業会館
26	Am I a Wolf?	Amir Houshang MOEIN	第22回アニメーション部門 新人賞作品	短編上映	産業会館
27	The Little Ship	Anastasia MAKHL INA	第22回アニメーション部門 新人賞作品	短編上映	産業会館

	【マンガ部門】				
28	臨死!!江古田ちゃん	瀧波ユカリ	第12回マンガ部門審査委 員会推薦作品	読書	文学館
29	モトカレマニア	瀧波ユカリ	28の関連作品	読書	文学館
30	ありがとうって言えたなら	瀧波ユカリ	28の関連作品	読書	文学館
31	漫画×詩 Narrative Live	瀧波ユカリ、三角み づ紀	28の関連作品	①滞在制作 ②立体展示	文学館
第21回文化庁メディア芸術祭					
32	ねえ、ママ	池辺 葵	大賞	読書	文学館
33	AIの遺電子	山田 胡瓜	優秀賞	読書	文学館
34	ニクスの角灯	高浜 寛	優秀賞	読書	文学館
35	銃座のウルナ	伊図 透	優秀賞	読書	文学館
36	夜の眼は千でございます	上野 顕太郎	優秀賞	読書	文学館
37	甘木唯子のツノと愛	久野 遥子	新人賞	読書	文学館
38	イーフィの植物図鑑	奈々巻 かなこ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
39	高倉くんには難しい	一條 マサヒデ/サブ リック	審査委員会推薦作品	読書	文学館
40	陽だまりの家	くりた 陸	審査委員会推薦作品	読書	文学館
41	ハード・コア 平成地獄ブラザーズ	狩撫 麻礼/いましろ たかし	審査委員会推薦作品	読書	文学館
42	久生十蘭漫画集 予言・姦	河井 克夫	審査委員会推薦作品	読書	文学館
43	報いは報い、罰は罰	森泉 岳土	審査委員会推薦作品	読書	文学館
44	狂気の山脈にてラヴクラフト傑 作集	田辺 剛	審査委員会推薦作品	読書	文学館
45	ストレンジ	つゆき ゆるこ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
46	電話・睡眠・音楽	川勝 徳重	審査委員会推薦作品	読書	文学館
47	あしあと探偵	園田 ゆり	審査委員会推薦作品	読書	文学館

48	イサック	真刈 信二 /DOUBLE-S	審査委員会推薦作品	読書	文学館
49	舟を編む	雲田 はるこ/原作:三浦 しをん	審査委員会推薦作品	読書	文学館
50	プ〜ねこ	北道 正幸	審査委員会推薦作品	読書	文学館
51	BLACK-BOX	高橋 ツトム	審査委員会推薦作品	読書	文学館
52	うたかたダイアログ	稲井 カオル	審査委員会推薦作品	読書	文学館
53	売野機子のハート・ビート	売野 機子	審査委員会推薦作品	読書	文学館
54	雑草たちよ 大志を抱け	池辺 葵	審査委員会推薦作品	読書	文学館
55	13月のゆうれい	高野 雀	審査委員会推薦作品	読書	文学館
56	大江戸国芳よしづくし	岡田屋 愉一	審査委員会推薦作品	読書	文学館
57	荷風になりたい～不良老人指南～	倉科 遼/ケン 月影	審査委員会推薦作品	読書	文学館
58	女流飛行士マリア・マンテ ガッツァの冒険	滝沢 聖峰	審査委員会推薦作品	読書	文学館
59	フィチン再見!	村上 もとか	審査委員会推薦作品	読書	文学館
60	フルーツ宅配便	鈴木 良雄	審査委員会推薦作品	読書	文学館
61	ムシヌユン	都留 泰作	審査委員会推薦作品	読書	文学館
62	モディリアーニにお願い	相澤 いくえ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
63	最高の夏休み	Jordi LAFEVRE/Zidrou	審査委員会推薦作品	読書	文学館
64	寝台鳩舎	鳩山 郁子	審査委員会推薦作品	読書	文学館
65	スペースノンフィクション	沼原 望	審査委員会推薦作品	読書	文学館
66	セブンティウイザン	タイム 涼介	審査委員会推薦作品	読書	文学館
67	ディエンビエンフー-TRUE END	西島 大介	審査委員会推薦作品	読書	文学館
68	ペリリュー楽園のゲルニカー	武田 一義	審査委員会推薦作品	読書	文学館
69	良い祖母と孫の話	加藤 片	審査委員会推薦作品	読書	文学館
70	MATSUMOTO	LF Bollée/Philippe Nicloux/Translation: HARA Masato	審査委員会推薦作品	読書	文学館
第22回文化庁メディア芸術祭					
71	ORIGIN	Boichi	大賞	読書	文学館
72	宇宙戦艦ティラミス	原作:宮川 サトシ/ 作画:伊藤 京	優秀賞	読書	文学館
73	百と卅	紗久楽 さわ	優秀賞	読書	文学館
74	夕暮れへ	齋藤 なずな	優秀賞	読書	文学館
75	見えない違い——私はアスペルガー	マドモワゼル・カロリーヌ/原作:ジュリー・ダシェ/訳:原 正人	新人賞	読書	文学館
76	黄色い円盤	黄島 点心	新人賞	読書	文学館
77	メタモルフォーゼの縁側	鶴谷 香央理	新人賞	読書	文学館
78	ハコヅメ ～交番女子の逆襲～	泰 三子	審査委員会推薦作品	読書	文学館
79	フラジャイル	恵 三朗/原作:草水敏	審査委員会推薦作品	読書	文学館
80	ブルーピリオド	山口 つばさ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
81	我らコンタクティ	森田 るい	審査委員会推薦作品	読書	文学館
46	電話・睡眠・音楽	川勝 徳重	審査委員会推薦作品	読書	文学館
82	本田鹿の子の本棚 暗黒文学少女篇	佐藤 将	審査委員会推薦作品	読書	文学館
83	ワカダンナ	塩川 桐子	審査委員会推薦作品	読書	文学館
84	マッドジャーマンズードイツ移民物語	ビルギット・ヴァイエ/ 訳:山口 侑紀	審査委員会推薦作品	読書	文学館

85	大人スキップ	松田 洋子	審査委員会推薦作品	読書	文学館
86	銀河の死なない子供たちへ	施川 ユウキ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
87	セリー	森泉 岳土	審査委員会推薦作品	読書	文学館
88	どこか遠くの話しよう	須藤 真澄	審査委員会推薦作品	読書	文学館
89	にわにはににん	中野 シズカ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
90	むかしこっぷり	おくやま ゆか	審査委員会推薦作品	読書	文学館
91	あをによし、それもよし	石川 ローズ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
92	鞆図書館	芳崎 せいむ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
93	ギガタウン 漫符図譜	こうの 史代	審査委員会推薦作品	読書	文学館
94	今日もいい天気 原発訴訟編 コタと父ちゃん編	山本 おさむ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
67	ディエンビエンフー TRUE END	西島 大介	審査委員会推薦作品	読書	文学館
95	ひだまり保育園 おとな組	坂井 恵理	審査委員会推薦作品	読書	文学館
96	Fの密命	秋月 カイネ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
97	しまなみ誰そ彼	鎌谷 悠希	審査委員会推薦作品	読書	文学館
98	セツちゃん	大島 智子	審査委員会推薦作品	読書	文学館
99	鉄工所にも花が咲く	野村 宗弘	審査委員会推薦作品	読書	文学館
100	火色の文楽	北 駒生	審査委員会推薦作品	読書	文学館
101	ペンタブと戦車	坂木原 レム	審査委員会推薦作品	読書	文学館
102	レオノーラの猛獣刑	モクタン・アンジェロ/ 共同原作: 梅原 セイ	審査委員会推薦作品	読書	文学館
103	二匹目の金魚	panpanya	審査委員会推薦作品	読書	文学館

文化庁メディア芸術祭とは

文化庁メディア芸術祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。

平成9年度（1997年）の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社は、文化庁が主催する文化庁メディア芸術祭の関連事業である「文化庁メディア芸術祭地方展」の企画運営を受託しています。